

ワクチン接種

免疫不全のある方へ

免疫不全のある方は、予防可能な病気から身を守ることが難しいときがあります。ワクチンで予防できる病気でも、深刻な肺感染症で入院が必要になったり、場合によっては死に至る危険性のあるものもあります。

ワクチン接種は予防可能な病気から身を守るための安全で効果的かつ簡単な手段です。感染症や疾患から回復するのが困難であることから、免疫不全のある方たちにとってワクチン接種は特に重要なものです。しかし、免疫機能がどれくらい影響を受けているかにより、回避すべきワクチンや免疫力が高まるまで待つべきものもあります。



あなたに推奨されているワクチンについて、医療従事者にご相談ください。

どのワクチンを受ける必要がありますか？

- **新型コロナワクチン:** このワクチンは、新たに発生する変異株に対応するために、随時改良されます。前回の接種時期に関わらず、改良型の新型コロナワクチンを最低1回接種することが、生後6ヶ月以上のすべての人に推奨されています。免疫不全者は、2023-2024年度の新型コロナワクチンの追加接種を受けることができます。

ワクチン未接種者は、改良型mRNAワクチン(ファイザー、バイオテック又はモデルナ社製)を3回、又はノババックス社製の新型コロナウイルスの改良型ワクチンを2回受けてください。

前回ノババックス社製の新型コロナウイルスの従来型ワクチンや1価又は2価のmRNAワクチン接種を受けた人は、前回の接種回数に応じて新型コロナウイルスの改良版ワクチンを1回か2回受ける必要があります。

- **インフルエンザワクチン:** インフルエンザにかかるリスクを減少させるために、特に秋にこのワクチンを毎年1回受けてください。65歳以上の方は、高用量インフルエンザワクチンについて医師にお尋ねください。



ワクチン接種

免疫不全のある方へ

- **RSウイルス:** 60歳以上の人は、RSウイルスワクチンを1回接種することでRSウイルス (respiratory syncytial virus)が免疫不全者に引き起こす肺感染症の重症化を予防します。生後8ヶ月未満の乳幼児は、肺感染症を予防するために、RSウイルスの流行時期 (10月～3月) 前かその時期にnirsevimab (Beyfortus) を1回受ける必要があります。RSウイルス感染症の重症化リスクが高く、2回目のRSウイルスシーズンを迎える生後8～19ヶ月までの乳幼児や子どもも、nirsevimabを1回受けてください。
- **肺炎球菌ワクチン:** 子供や大人に深刻な感染症を引き起こすことがある、複数の種類の肺炎球菌を予防します。小児用の4回接種を5歳までに済ませることが推奨されています。年上の子どもや成人に対するは推奨事項はこちらからアクセスできます。

ワクチンを受けるにはどうすればいいですか？

- ❖ 医療機関または薬局に行く。
- ❖ ワクチンの追加接種の必要性について医師に尋ねる。
- ❖ かかりつけの医師がいない場合は、<http://publichealth.lacounty.gov/vaccines> にアクセスし、低価格または無料でサービスを提供しているワクチンクリニックのリストやワクチンに関する詳細情報をご覧ください。
- ❖ ほとんどのワクチンは同時に接種することができます！

推奨されているワクチン接種のリストは
こちらから: www.cdc.gov/vaccines



公衆衛生コールセンター

詳細情報は、公衆衛生コールセンターまでお問い合わせください。
1-833-540-0473 (年中無休、受付は午前8時から午後8時まで)

